



軟性内視鏡を用いた外科系診療科とのコラボレーション（合同）手術の治療成績に関する遡及的解析

2017年10月1日から2023年12月31日までに日本医科大学付属病院にて消化器・肝臓内科と外科系診療科（消化器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科）との合同手術を受けられた患者さん

研究協力をお願い

当科では「軟性内視鏡を用いた外科系診療科とのコラボレーション（合同）手術の治療成績に関する遡及的解析」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2017年10月1日から2023年12月31日までに日本医科大学付属病院にて消化器・肝臓内科と外科系診療科（消化器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科）との合同手術を受けられた患者さんの治療成績を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：軟性内視鏡を用いた外科系診療科とのコラボレーション（合同）手術の治療成績に関する遡及的解析

研究期間：研究実施許可日から2024年9月30日

研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 准教授 後藤 修

(2) 研究の意義、目的について

本研究の目的は、当院で行われた消化管腫瘍性疾患（咽頭癌、食道・胃・十二指腸・大腸/肛門管の上皮性腫瘍及び粘膜下腫瘍）に対する消化器・肝臓内科と外科系診療科（消化器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科）との合同手術における短期手術成績を解析し、その妥当性を検討することです。手技を達成できた割合、手術時間、有害事象なども併せて評価します。内視鏡医と外科医によるコラボレーション手術が妥当であることが研究によって示されれば、より積極的に体に負担の少ない手術が行われていくことが期待されます。また、今後その有効性や対象となる疾患などの検討が行われていく可能性があるという点でも有意義であると考えています。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2017年10月1日から2023年12月31日までに日本医科大学付属病院にて消化器・肝臓内科と外科系診療科（消化器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科）との合同手術を受けられた患者さんの治療成績を診療録の情報から抽出して評価します。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、疾患情報、内視鏡所見、手術記録、術後経過、病理所見など。また、治療時に録画される内視鏡画面および腹腔鏡画面の動画データは、治療時間の測定、実施された手術方法の確認、術中合併症の確認目的に使用します。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 准教授 後藤 修

〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：6725

メールアドレス：o-goto@nms.ac.jp

(手術後に消化器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科で診療されている方におかれましては、上記の医師が対応窓口となり、必要に応じて各診療科と対応いたします。)